

～江別版「生涯活躍のまち」構想の概要について～

I. 国の「生涯活躍のまち」とは

1. 「生涯活躍のまち」構想とは

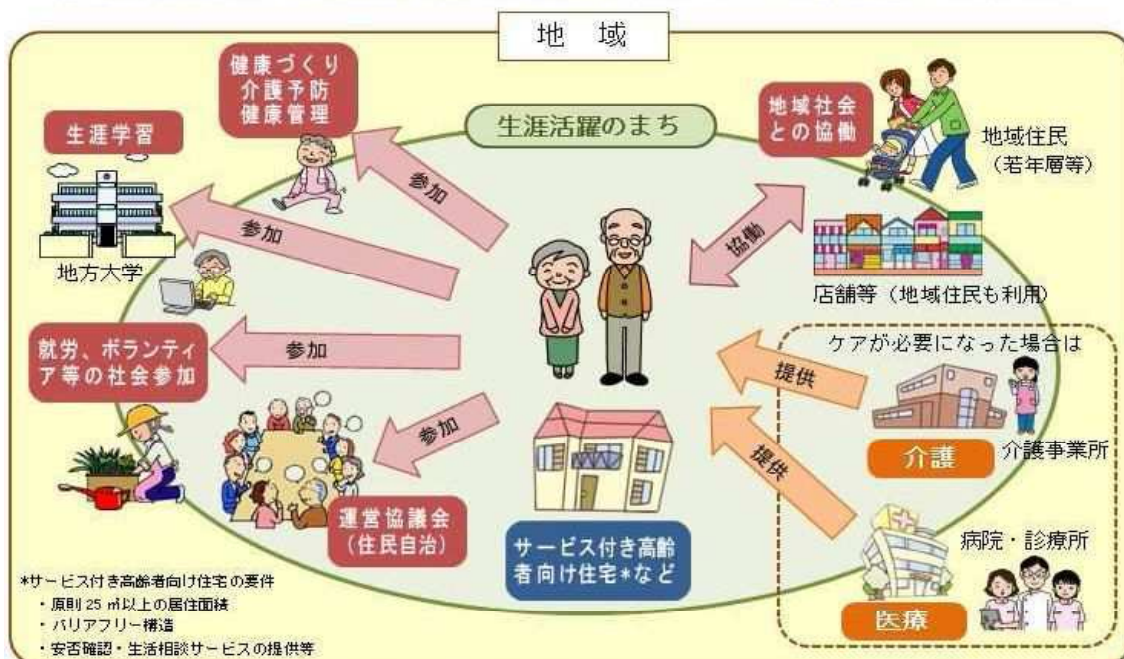
「生涯活躍のまち」構想は、「東京圏をはじめとする地域の中高齢者が、希望に応じ地方や「まちなか」に移り住み、多世代の地域住民と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくり」を目指すものです。構想の主な意義としては、①中高齢者の希望の実現、②地方へのひとの流れの推進、③東京圏の高齢化問題への対応、の3つの点があげられます。

2. 「生涯活躍のまち」構想の基本コンセプト

- ①東京圏をはじめ地域の中高齢者の希望に応じた地方やまちなか」などへの移住支援
- ②健康でアクティブな生活の実現
- ③地域社会（多世代）との協働促進
- ④「継続的なケア」の確保
- ⑤IT活用などによる効率的なサービス提供
- ⑥入居者の参画・情報公開等による透明性の高い事業運営
- ⑦構想の実現に向けた多様な支援

3. 「生涯活躍のまち」における中高年齢者の生活(イメージ)

- ①健康でアクティブな生活の実現と継続的ケアの提供、②自立した生活ができる居住環境の提供、③入居者の参画の下、透明性が高く安定した事業運営によるコミュニティの形成を一体的に実現。



※事業の透明性・安定性の確保の方策：入居者の参画、情報公開、事業の継続性確保等

Ⅱ. 「江別版」構想に当たって

1. 江別市の現状と市民の意識

①人口動態

⇒ファミリー層は札幌市からの転入が多い一方、50歳以上の世代では、札幌市への転出が多い

②市民アンケート

⇒現在の居住地への満足度が高い

⇒学習活動への参加意欲が高い

⇒「生涯活躍のまち」への期待がある

⇒求めるサービスは、「医療・介護の充実」の割合が高い

(表 江別市からの転入・転出、2014年) (人)

	全体	道内		道外	
		札幌市	その他道内		
総数	▲ 117	75	▲ 445	520	▲ 192
10歳未満	256	256	146	110	0
10歳代	152	112	▲ 57	169	40
20歳代	▲ 802	▲ 564	▲ 424	▲ 140	▲ 238
30歳代	163	177	74	103	▲ 14
40歳代	89	84	▲ 3	87	5
50歳代	▲ 2	▲ 12	▲ 68	56	10
60歳代	30	22	▲ 40	62	8
70歳代	▲ 1	▲ 2	▲ 29	27	1
80歳代以上	▲ 2	2	▲ 44	46	▲ 4
50歳代以上(再掲)	25	10	▲ 181	191	15

- ・東京圏から移住してもらうよりも、市内にいる市民が札幌市などに転出することなく、安心して住み続けられるようにしたい



2. 江別版「生涯活躍のまち」のコンセプト

- ①江別市民が生涯にわたって、医療・介護サービスの充実や生活利便性の確保といった安心した生活ができるまちづくりを目指す
- ②若年層や障がい者など多様な主体との交流による「共生のまち」を実現し、まちの持続可能性を高める
- ③4大学（酪農学園大学、北翔大学、札幌学院大学、北海道情報大学）をはじめとする地域の特色ある社会資源（商店街など）を十分に活用する



モデル地区の検討

3. 「札幌盲学校跡地の一部を中心とした大麻タウン型モデル」を選定した理由

- ①道立高等養護学校の誘致活動により、高齢者と障がい者、若者などが交流する「共生のまち」への意識が高まっている
- ②平成21年に江別市大麻団地住環境活性化調査研究会が、「大麻団地まちづくり指針」を提言するなど従来からまちづくりの議論を重ねた地域であり、構想の導入に向けた熟度が高まっている

Ⅲ. 江別市における「生涯活躍のまち」

拠点地域（札幌盲学校跡地の一部）の状況

- ・平成23年に市内の幅広い団体で構成する、江別市への道立高等養護学校誘致期成会が設立され、道立高等養護学校の誘致活動が行われている
- ・高等養護学校の誘致活動により、高齢者と障がい者、若者などが交流する「共生のまち」への意識が高まっている
- ・当該地は道有地であり、江別版「生涯活躍のまち」構想はその余剰地を予定しており、北海道との協議が必要となる



拠点地域における具体例

①地域交流拠点施設

（例：入居者の社会参加活動、障がい者就労）

②住まい

（例：サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム）

③医療・介護サービス

（例：市内の既存サービスを活用）

④社会参加のための仕組み

（例：アクティビティ等のプログラム提供）

⑤多様な交流を促す仕組み

（例：イベント等による道立高等養護学校の生徒と高齢者の交流）

⑥コーディネーターの配置

（例：入居者の暮らし全般をコーディネートする人材配置）



大麻地区全体への展開例

①住み替え支援サービス

（例：住み替えの相談窓口）

②住まい

（例：既存の集合住宅の空き家の活用）

③医療・介護サービス等

（例：拠点地域周辺にある既存の医療・介護サービス等の活用）

④社会参加のための仕組み

（例：地域の商店街で空き店舗を活用したコミュニティ活動
：江別市内の4大学による市民向け講座を通じた生涯学習活動）

⑤多様な交流を促す仕組み

（例：大学や近隣の小中学校、商店街などとの交流）

⑥交通アクセス

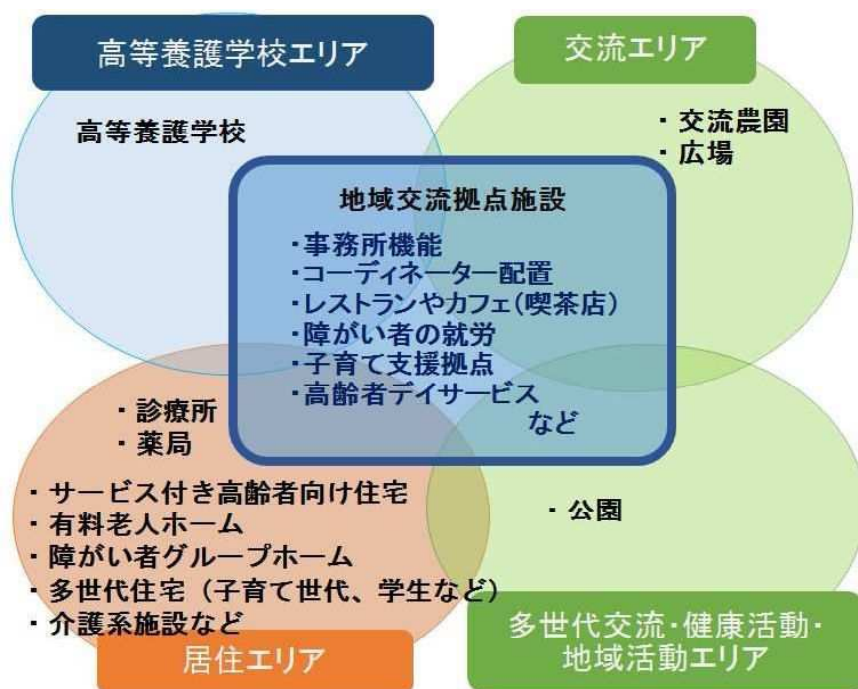
（例：既存のバス路線等の交通網を活用）

拠点地域から大麻地区全体の「タウン型」へ展開



江別市全体への波及

拠点地域のイメージ



IV. 生涯活躍のまちの展開イメージ

